

ぞく有様よりはじめて、めやすくもてつけて、爰かしこに群居つ、齒固のいはひして、もちひかがみをさへとりよせて、千年のかけにまゐるきとしの内の祝ごとくもして、そぼれあへるに、○下略

〔枕草子〕木は略、○中ゆづりは○中よはひのふるはがための具にもしてつかひためるはいかなるにか、

〔賀茂保憲女集〕かしら白き翁おうな齒固とおぼしき事をいひとめて、鮎の口をうつくしみ影もうかばぬもちの鏡として、○下略

〔續山の井春〕齒固

はがためもかむべき老のはじめ哉

齒固を祝ふや芋もあらめでた

生計
退歩

〔年中行事故實考〕正月凡、齒固の鏡もちをかざり用ゆ、中古の圖後に見ゆ、檯は衝重紙を一重三方へ下げて敷向は明て置大なる餅大小二ツをかさねてかざる、其うへにひし餅を据ウ、但赤餅五ツ白餅五ツ置なり、置様は松を中に立、まはりにひし餅を重ねて置なり、松は圖のごとく三重に枝あるを立、其まはりに前は熨斗、向は昆布、右はかうじほだはら、左は柿三ツ、栗とを見合置也、禁中にて内膳司よりこれを奉る、禁中にて上代は六本立の規式あり、○圖略

供齒固

〔成氏年中行事〕正月十五日ヨリ内ニ、御齒固ノ御祝アリ、平人ノ祝ニ見ル圓鏡ノヤウニハアラズ、ホソク長キ御鏡也、打衣トテ長サ五尺計ニテ、ヒロサ三尺計ナル衣ニ、コノリヲ付テ縁ヲ取テ、四ノスミニアツマキ總角ヲ綿ニテ結テサゲタル衣ヲ、ヒロゲテシキテ、其上ニ御齒固ヲ置キ申、

〔延喜式〕三十九蘿蔔、味噌漬、菰、糟漬、菰、鹿、猪、宍、押鮎、煮鹽鮎、瓷盤七口、高案一脚、長三尺五寸、廣一尺七寸、高四尺

〔西宮記〕正月上、供御藥事、○中略